

グループ学習について

北海道野幌高等学校

グループ学習について

北海道野幌高等学校

千葉 崇憲

1 学校の概要

(1) 沿革

昭和23年 北海道野幌高等学校設立認可1学級で発足

昭和47年 第1回全日制普通科入学式挙行（4間口180名）

平成20年 学校教育目標等の改訂、フィールド制による教育課程の導入

(2) 進路状況

ア 平成19年度卒業生の進路状況一覧

性別	項目	進 学				就 職		自営・家事手伝	未 定	合 計
		大 学	短 大	専修学校	看護学校	道 内	道 外			
男子		56	6	43	0	33	6	1	15	160
女子		4	4	52	0	24	3	0	38	125
合計		60	10	95	0	57	9	1	53	285
合計 (%)		21.1%	3.5%	33.3%	0.0%	20.0%	3.2%	0.4%	18.6%	100.0%

大学・短大が24.6% 専門学校が33.3% 就職が23.2% 未定が18.6%

イ 大学の内訳

大 学	平成19年度			平成18年度	平成17年度
	男	女	計		
札幌大学	2		2	3	1
北海道工業大学	3		3	2	4
札幌学院大学	13		13	18	11
北翔大学	9	3	12	2	11
北海道情報大学	22	1	23	9	13
酪農学園大学	1		1	3	5
札幌国際大学	1		1	1	3
北海道文教大学	2		2		1
道都大学					2
北海道東海大学					1
千歳科学技術大学	1		1		
大阪商科大学	1		1		
合 計	55	4	59	38	52

身近にある大学への進学が目立つ。北翔大学、北海道情報大学と高大連携をしている。

ウ 年度別就職希望者数

年度	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19
男子	61	67	50	44	34	54
女子	61	69	71	50	69	55
合計	122	136	121	94	103	109

エ 平成19年度就職先の産業別・職業別一覧

(ア) 産業別

産 業 別	男 子	女 子
E 建設業	6	
F 製造業	14	6
I 運輸業	5	2
J 卸売・小売業	2	10
K 金融・保険業	1	
M 飲食店・宿泊業	3	6
N 医療・福祉	1	
Q サービス業	2	1
R 公務（他に分類されないもの）	1	1
S 分類不能の産業		1
合 計	35	27

(イ) 職業別

職 業 別	男子	女子
A 専門的、技術的職業（看護師見習を含む）	1	
C 事務的職業（レジスターを含む）	1	1
D 販売営業の職業	2	9
E サービスの職業（理美容、調理師見習）	3	7
F 保安の職業（ガードマン、自衛官）	1	2
H 運輸通信の職業（配送、運転、バスガイド）	1	1
I 技能、運転、建築の職業	26	6
J 分類不能の職業		1
合 計	35	27

※分類は行政管理庁の「日本標準分類」による。

オ 入学者選抜

推薦入試を行っている。

カ 部活動

平成19年度は33.1% 平成20年度は33.3%

2 目的

秋には生徒が学校生活に慣れ、だらしなくなったり、集中できなくなったりする生徒が出てくるので、変化を与えて飽きさせない工夫。教えあう授業。社会へ出て困らないよう、コミュニケーション能力の育成。以上3点から秋にグループ学習を計画。

3 実施状況

4月から8月にかけて教え合う雰囲気、説明に耳を傾ける習慣を指導。具体的には毎日の宿題提出、わからないところについて友達同士での相談。友達の宿題を丸写しする生徒がいたが、考えながら取り組まなければ自分のためにならないと注意した。また板書して消した後、同じ解答を各自ノートに書き、隣り同士での丸付けを毎時間行った。9月から聞く姿勢が整ったクラスでグループ学習を行った。

(1) プレ実施

実施日時：2008年9月16日

ねらい：グループ学習の導入

形態：1列1組 計6組

内容：最初10分間。簡単な問題を列の代表が答える。間違った場合は立ち、列の誰かが正解するまで立つ。実際には問題が簡単なため立たないよう配慮。残りの時間は平方完成の授業をした。

結果：机を動かさず、グループを作れる良さを感じた。クラス全体が集団として参加。

(2) 第1回目

実施日時：2008年9月17日

ねらい：縦(同性)1組に対して、横2人(男女)で1組。段階的にグループ学習へと移行。生徒主体で役割分担できるようにした。

形態：隣同士2人1組(男1女1) 20組

内容：まず $y = ax^2 + bx + c$ の $a \neq 0, 1$ における平方完成について指導した。

残り15分間。横で2人1組。練習11(3)～(6)をグループごとに当てる。代表者は解答を板書。

結果：授業前に予想しなかったが、前後グループで話しあっていた。男女の性別による抵抗はなかった。課題が簡単すぎたため、生徒同士で考える時間がほとんどなかった。

(3) 第2回目

実施日時：2008年9月24日

ねらい：前回からステップアップ。協調性・表現力の育成、自主的に取り組む姿勢の育成。

形態：2列1組 3組 (実際には6～7人1組で6組編成になった)

内容：平方完成から最大値・最小値を求める問題。次に範囲を制限して最大値・最小値を求める問題を説明した後、残り15分間。最初の5分で机の移動、プリント配布、机を向かい合わせる。授業前の予想では列が後ろまで続くと考えたが、実際は6人1グループに組んだ。以下の問題を出した。

5 評価

(1) 生徒による評価（アンケート）

ア グループ学習では普段の授業よりも友達や先生に相談しやすいと答えた生徒

11人（男 6人 女 5人）

変わらないと答えた生徒

24人（男13人 女11人）

相談しづらいと答えた生徒

3人（男 0人 女 3人）

イ グループ学習では普段の授業よりも友達に教える機会があると答えた生徒

13人（男 6人 女 7人）

変わらないと答えた生徒

23人（男13人 女10人）

少なくなると答えた生徒

2人（男 0人 女 2人）

ウ 普段の授業の中にグループ学習があると飽きないと答えた生徒

15人（男 8人 女 7人）

変わらないと答えた生徒

23人（男11人 女12人）

エ グループ学習に対する意見

- ・ 普段の授業よりも授業中に人と接することが多く、みんなで話し合いができるので、グループ学習は大切だと考える。
- ・ 一人で考えたいときの方が多いので、一人で勉強したい。グループになると騒がしくなるので、一人で静かにやりたい。
- ・ 男子と気まずいときがあるから、あまり良いとは思っていない。
- ・ いつもは自分の考えしか知ることはないが、グループ学習だと、他人の考えや意見を聞くことができ、自分も違う考えができるようになった。
- ・ 得意な人と、苦手な人を分けてやった方がレベルにあった授業ができて良いと思う。
- ・ 普段の授業でも友達に教えたり、相談したりするから、グループ学習があってもなくても変わらない。
- ・ 相談し合って答えを導き出すのはおもしろい。
- ・ コミュニケーションがあまり得意ではないのであまり会話ができないが、やばいのだろうか。
- ・ 難しい問題がなかったのも、特に周りの人に聞いたりしなかったのも普段の授業と変わらなかった。
- ・ 普段の授業よりクラスみんなが積極的に発言してくれるので、その発言を参考に問題が解けることがあるのでよいと思う。

(2) 授業者の評価

40%の生徒がグループ学習を実施した方が授業に飽きないと解答。他クラスに比べて普段の授業の集中力が高いと感じた。29%の生徒が通常授業より相談しやすいと解答した通り1回目の実施から普段の授業よりも多く相談していた。しかし第3回目では私語が目立った。意見にもあったが課題設定が難しかった。また、グループ学習後の定期考査では習熟度に大きな変化はなかった。

6 まとめ

実際に行うとグループ学習に馴れている生徒が多かった。様々な形態を試した結果、2人1組が適していた。前後の組と自然に相談し合うので、結果的に4～6人前後の集団形成が期待できる。なによりも私語がなかった。ルールも工夫して取り組みたい。

普段は話さない相手や、気まずい関係の相手とどのように接して良いかわからない生徒も多かった。そのために、まだまだ数学の問題とは全く違うところに意識が向いていた。まずは同じペアで何度も共同作業させ、どのように接すればいいか経験の中で学ばせたい。

「他人の考えや意見を聞くことができ、自分も違う考えができるようになった」、「相談し合って答えを導き出すのはおもしろい」と意見があった。そのように生徒を感じる授業には、グループ学習が適していると感じた。グループ学習の長所を伸ばす方法を考える必要がある。

グループ学習を調べていく上で広島県立安西高等学校を知った。そこではグループ学習を通して帰属意識が高まったそうだ。グループ学習をするには私自身が様々な力をつけなければいけないと感じた。